

第7回 昭島市公共施設等総合管理計画推進検討委員会

議事要旨

日時：令和3年7月20日（火）

午後6時30分～8時30分

会場：本庁舎3階庁議室（オンライン開催）

次 第

- 1 開会
- 2 議題
 - (1) 公共施設等総合管理計画の改定について
 - (2) その他
- 3 閉会

配布資料

事前配布

- 第7回公共施設等総合管理計画推進検討委員会 日程
- 第6回公共施設等総合管理計画推進検討委員会 議事要旨（案）
- **資料** 昭島市総合基本計画 たたき台「4 公共施設の状況（公共施設等総合管理計画）」

出席者

委員長・・・・荒井委員

副委員長・・・・菅谷委員

委員・・・・柳井委員、和田委員、杉田委員

事務局・・・・永澤企画部長、関谷企画部行政経営担当課長、萩原企画調整担当係長、川島企画部行政経営担当係員

傍聴者・・・・1名

要　旨

1 開会

○事務局より、第6回議事要旨（案）について内容確認したところ、和田委員より、自身の発言の主旨と異なる内容があるとのことで、その部分を修正することで、委員より了承をいただく。

2 議題

(1) 公共施設等総合管理計画の改定について

○事務局より配布資料に基づき説明し、その後、各委員より質疑。

（和田委員）

1ページ、「第4章 計画の策定にあたって」中、項目番号が1から5まであり、本委員会にて議論している項目は「4公共施設の状況（公共施設等総合管理計画）」という表現になっているが、項目名に違和感がある。例えば「公共施設の管理に向けた計画（公共施設等総合管理計画）」と記載した方が前後の項目名とも馴染むものと考える。

また、項目名を変更とするとページ上段の「構成」の各項目名においても「(1) 公共施設等の保有状況について」、「(2) 公共施設等のマネジメント①公共施設等総合管理計画」と展開されているが、(1)には「公共施設等総合管理計画」をもってくるべきではないかと考える。

次に2ページ、「4公共施設の状況（公共施設等総合管理計画）」には、総合管理計画を進めるにあたっての背景、目的が記載されており、非常に重要な点である。6ページ「(2) 公共施設のマネジメント」中にも背景と目的が詳しく載っているため、併せてまとめた方が望ましいのではないか。

次に6ページ「(2) ②計画期間」について、総合管理計画と個別施設計画、さらには総合基本計画、それぞれの計画がどのように関係しているのかが分かりにくい。元々の総合管理計画ができたあと、個別施設計画を策定し、その内容を基に総合管理計画を改定し、さらに改定した内容を総合基本計画に展開させていくという表現をしないと、それぞれの計画がどのように関連していくのかが、見えにくいと感じる。

3, 4ページ、「①公共施設の一覧」とあるので、「②インフラの状況」については「②インフラの一覧」と統一したほうが良いと考える。

3ページ、令和3年3月31日に見直しを図った際の施設数について、上段の表だと165施設だが、文中では166施設となっているため、確認していただきたい。

8ページ、削減された費用について、下段表中にも合計額を記載した方がよろしいと考える。

（事務局）

「4 公共施設の状況（公共施設等総合管理計画）」の表記については、委員からの案も参考に一度検討したい。また、3ページ、公共施設の合計数は正しくは165施設となるため、本文を修正する。

（荒井委員長）

本計画は公共施設の管理について、将来の方向性を議論していくものと考えている。管理やマネジメントという文言がよろしいのではないか。また、冒頭に背景と目的があつた方が、読み手としては共通の認識で資料を読み込むことができるを考える。

(事務局)

総合基本計画の中に総合管理計画を内包していく形で進行すると説明したが、ある程度、背景、目的を載せる必要があると考えている。総合管理計画の内容について、総合基本計画に記載する内容とのバランスを見ながら、どこまで詳細を載せていくかは精査したいと考えている。

(荒井委員長)

必要な情報は盛り込んでいるものと考えるが、より分かりやすく表現していくよう配慮していただきたい。

(和田委員)

2ページ、3行目、「財政運営上の負担」とあるが、負担という表現に違和感がある。公共施設の維持管理が市にとって「重荷」になっていると意味があると捉えてしまう恐れがあるのではないか。

(荒井委員長)

文章表現については、2ページ、2行目について「公共施設等の運用が」とあるが、行政目線の表現であり違和感がある。行政サービスをうまく提供するためには公共施設が大事である、というような一文から入ってほしいと感じる。市民目線での表現を考慮していただくと、より伝わっていくと考える。

(事務局)

本日いただいた意見を参考に文章一つ一つを精査しながら、改めて各委員にご議論をいただく中でブラッシュアップしていく。

(荒井委員長)

3ページ表下、1行目、「公共施設（上・下水道施設を除く）」とあり、4ページ、「②インフラの状況」の中には上・下水道施設等が記載されている。3ページにおいて、「（上・下水道施設を除く）」とあえて記載するのは、何らかの意図があるのか。

(事務局)

上・下水道施設については、インフラ施設に含めていくものとしており、公共施設を大別すると、建築物とインフラ施設に分類される。記載内容の表現については、他のご指摘の部分と含めて一度検討する。

(荒井委員長)

公共施設等の「等」が何を示すのかという疑問を持つ方もいると思う。3ページ、「①公共施設の一覧」、4ページ「②インフラの状況」について、公共施設（建築物）とインフラ施設の2種類があるという事を基本的な情報として記載した方が良いと考える。

5ページ、下3行目、「施設の劣化状況を把握するべき公共施設が～」とあるが、「すべき」という表現に修正したほうが良い。

6ページ、下段のチャート図について、前回（第6回）会議の資料の図の方が、総合基本計画に総

合管理計画が含まれていることが分かりやすく表現されていたと思う。

7ページ、「③対象施設」の中に建築物に加えて、インフラ施設も含むとあるが、3ページの（上・下水道施設を除く）との兼合いが出てくるが、そのあたりの区別を一旦説明願いたい。

(事務局)

道路、橋りょう、上・下水道施設等のインフラ施設は、総合管理計画における対象施設として含めていくものであるが、個別施設計画においては、各インフラ施設についてはインフラ長寿命化計画を個別に策定するため、公共施設（建築物）とは切り離す形で策定をした経緯がある。個別施設計画においては、公共施設の今後の対策費用を算出したものであるが、インフラ施設については、含まれていない。この辺りの表現に違和感があるものと感じているため、一度を精査する。

(荒井委員長)

8ページ、表下に効果額の合計欄を設けるのがより分かりやすい表現であると考える。

また、表下※2はマイナスの説明だが、「なお、～マイナス表記としています。」という部分がやや分かりにくく感じた。

次に9ページ以降の計算内容について、「⑤維持管理・更新等に係る今後の見込み」の流れが分かりにくく感じる。下位階層の i から iii の各内容について、流れを最初に示したうえで、iii が結論であり、i、ii、の差額を比較するために各項目の計算をして、iii の圧縮額を求めるという流れを示した方が分かりやすいと考える。

また、11ページ「一般財源」という文言が唐突に出てきたと感じる。全体事業費から足りない部分を市の歳出として補うものが一般財源といえるのではないかと考えているが、本委員会を含めて一般市民に伝わるものかどうか、その辺りを確認したい。

(事務局)

ご指摘の通り、「一般財源」とは何かの説明が必要になってくるかと思う。資料 10 ページに総合管理計画策定時の今後 20 年間の財政推計に「一般財源は～」という文言が出てくる。市が負担していくものが一般財源であり、その中で歳入としては地方税（市税）が大部分を占めている。総合管理計画を策定した際、地方税として 20 年間の歳入合計として 3,930 億円と試算されている。しかしながら、昨今のコロナ禍において、地方税収入の動向も不透明になってきている。その中で、総合管理計画の改定にあたって、どの数値をもって比較していくのかといったところで、地方税と財源不足額を加算した一般財源額での比較をしたところであるが、一般財源額の説明について、もう少し分かりやすい表現を検討したいと考えている。

(荒井委員長)

i から iii の関係で、「以前の計画ではこのような推計であったが、直近の見直し時点ではこのような推計となっているため、差額がこの程度発生している。」というような表現で、直近の見直し額と計画策定時点での試算額を比較して、これだけ圧縮がなされたという流れを意識していただけると有難い。

また、若干話はそれるが、総合管理計画は総合基本計画に包含するものであるが、我々が現在改定を行っている総合管理計画、また昨年度策定した個別施設計画もあり、各計画の名称が似通ってお

り、混乱を招くのではないかと懸念している。

(柳井委員)

5ページ、「昭和55年前後に旧つつじが丘小学校、福島中学校、瑞雲中学校～」と記載があるが、当時はつつじが丘北小学校、つつじが丘南小学校と別の学校であったため、この辺りの表現が良いのかどうか、議論したい。

(事務局)

昭和55年前後に旧つつじが丘北小学校も含まれているため、誤解がないように表現を修正する。

(杉田委員)

公共施設の面積の削減、維持管理費用の財源の不足という課題を検討する中で、施設の優先順位があると思うが、特に学校などは面積を削減できるのかという問題があると考えている。さらに、耐用年数の期限が同時期に到来する学校があると思われるが、その辺りをどのように考えているのか。また市立会館についても同様に、耐用年数が重なることが考えられる中で、維持管理を民間に委託するなどの検討はしているのか。

(事務局)

各学校については、個別施設計画を作成した際に、基本的には耐用年数が到来するものについては大規模改修による長寿命化を図り、耐用年数を伸ばしていく方針であるが、時期が集中しないよう年に度をずらして実施し、その後の更新に備えるという計画である。しかしながら、大規模改修と更新の時期をどのように設定していくか、ハード面だけではなくて、生徒数等の動向等、ソフト面も含めて、施設面積縮減を引き続き考えていかなければならないと考えている。

市立会館についても耐用年数が近づいてきているものもあるが、基本的には長寿命化を図っていくという内容で個別施設計画に盛り込んでいる。こちらもソフト面において、使い方をどうしていくのか、総合管理計画においても複合化、多機能化といった形で、民間活用の考えも含めて、どのように活用していくのか考えていかなければならないと考えている。

(杉田委員)

学校に関してはトイレの改修等、毎年のようにいずれかの学校で改修を行っていると思うが、それにも相当の費用がかかっている中で、思い切って、建替えも検討すべきではないか。公共施設を個別に検討していく中で議論をしていくという理解でよろしいか。

(荒井委員長)

学校に関しては府内でも調整が必要であると認識しているが、関係各課と調整を図りながら進めていかなければならないものと理解している。学校の建替えは総合管理計画の計画期間内から先延ばしした格好となっているため、将来的には計画及び実施ということを視野に入れていかなければならないものと考える。

(事務局)

学校については、文部科学省から少人数制の授業を進める方針を受け、教室数がどの程度必要なのか等、今後、教育委員会において検討すべき課題であると認識している。また各生徒にPCを配布して授業を行っていくというような流れもある中で、教室も広げていかなければならない可能性もある。教育委員会を中心に、今後どのような方向性、計画をもってやっていくのかということを、一緒に議論していかなければならないものと考えている。

(荒井委員長)

これにて、本日の議題は終了とするが、改めて、お気づきの点があれば事務局へ連絡をお願いしたい。

(2) その他について

○次回会議について、以下の日程で開催することを決定し閉会とした。

・第7回会議…令和3年8月10日 午後6時30分～

なお、会議の開催方法については、引き続きオンラインでの開催とすることとした。

(事務局)

本日いただいた意見も踏まえ、次回委員会の資料がまとまり次第各委員へ送付するが、何かご意見等があれば、その時点でメール等で事務局へご連絡をいただければ、各委員へ共有したい。委員会開催前に整理できる点は行っていきたいと考えている。

(荒井委員長)

次回委員会までに事務局より資料が送付された後、各委員にて内容を確認し、質疑等があれば事務局に連絡をいただき、委員会では内容の確認の場とできればと思う。